

サブプライム問題は アメリカでどのように 捉えられているのか

今年も七月下旬からシカゴの下町で社会人相手に授業をしながらアメリカの様子を観察している。例年と変わりなくミシガン通りは近郊や欧州からの買い物客で賑わい、街中ではトランプタワーを始め超高層の何棟もの大型オフィスビルの建設が続いている。表面的にはサブプライム問題やインフレの懸念などどこ吹く風といった感じだ。ところが金融の専門家に聞くと、今回の問題は従来とは性質の違うかなり深刻な問題のようだ。それは住宅金融というアメリカの金融の根幹に問題が起き、市場が複雑化しすぎ問題がどこに波及するか分からないことから、政府が金融機関救済という議論の多い行動に乗り出したことにあるようだ。これは金融市場だけではなくアメリカの経済構造全体にかなり長引く容易に解決できない問題をもたらすというのがこの識者の意見だ。

授業を受ける一六人の社会人学生に聞いてみた。サブプライム問題に第一に責任があるのは自己利益追求のため野放図にローンを売りまくったオ

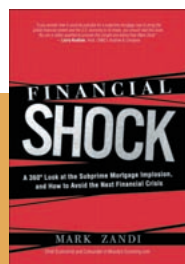
リジネーターで、これに資金提供したり証券化を行う金融機関が利益追求に走り必要なリスクコントロールの手立てがされなかった。今回の問題は金融危機と呼べるもので従来の問題のように一年ぐらいで目処が立つものではなく解決には二、三年かかるという意見が多数を占めた。このような問題の再発を防ぐには金融機関に長期的な視点に立つ自己規律が最も必要だとしている。二名がこのような問題の発生は短期視野のアメリカの金融にとり不可避のもので周期的に生じざるを得ないとしていたのは印象的だった。

アメリカではこのような金融や経済の問題が生じるたびに、かなり分かりやすい問題全体の解説本と、そこで悪意の行動を取った人々の実態を調査報道の手法で明らかにする内幕物が出てくる。今回それぞれの代表的なものを本屋で探してみた。

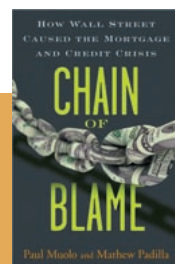
①は格付機関ムーディーズ子会社で主任エコノミストを務める著者が、何故サブプライム問題が生じたかを、ローバルな金融危機に拡大したかを、モーゲージ証券の仕組みや住宅ローン市場の現状に即して統計資料を駆使し分かりやすく解説する。アメリカで周期的に生じる金融バブルとそ

の破綻の要因は、複雑化した金融技術の発達と債務過多経済にあるとし、次に起きる危機はアメリカ政府の債務危機であることを警告している。今回の問題の全体像を理解するにいい本だ。

②は住宅ローンの専門誌記者とサブプライム問題の影響が最も大きい南カリフォルニアの地方紙記者とが、問題を引き起こした業界関係者に密着取材した業界の内幕物だ。主人公は二〇〇〇年に入りサブプライム業者としてあつという間に成功し凋落したモーゲージバンクの経営者や、ベアスターンズ、メリルリンチの投資銀行家やモーゲージ証券トレーダー達、脇役はFannie MaeのCEOを含むさまざまな業界の貪欲なプレーヤー達だ。彼らは皆仲間であつたが、狭い世界だ。自己利益の追求のために無知な借り手をだまし、法の抜け穴をくぐって高利益の金融商品を工夫し、業界ぐるみで危機へ突っ走ってしまったアメリカの金融界のプレーヤー達の具体的な話は実に面白い。八〇年代のインサイダー・トレーディングやジャンク債の帝王マイケル・ミルケンの疑惑を思い出すまでもなく、ウォール街の業界ぐるみの短期視野と過剰な利益追求には構造的な面がある。



① **Financial Shock**
A 360 degree Look at the Subprime Mortgage Implosion, and How to Avoid the Next Financial Crisis
Mark Zandi
FT Press / July 2008



② **Chain of Blame**
How Wall Street Caused the Mortgage and Credit Crisis
Paul Muolo, Mathew Padilla
Wiley & Sons / July 2008